

2020年9月30

2019年度 学校関係者評価報告書

杉野学園ドレスメーカー学院
学校関係者評価委員会

2019年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1. 学校関係者評価委員

- ・福永 成明氏 ファッションビジネス学会 理事
一般社団法人 日本アパレルファッション産業協会 委員
有限会社 ファッションリンクス 代表
- ・櫻井 武美氏 横浜ファッションデザイン専門学校 理事長卒業生
- ・伊藤 雅彦氏 株式会社 西銀座デパート 取締役
合同会社 グリシーヌインターナショナル CEO

2. 学校関係者評価委員会の開催状況

- | | | |
|--------|-------------------------|----------------|
| 第1回委員会 | 令和2年2月20日(木)14:00～17:15 | (場所 本校舎3階 会議室) |
| 第2回委員会 | 令和2年3月12日(木)14:00～16:30 | (場所 本校舎3階 会議室) |

3. 学校関係者委員会報告別紙のとおり

以上

基準1 教育理念・目的・人材育成像

・理念・目的・育成人材像

創設者の杉野芳子先生の建学の精神に基づき①挑戦(チャレンジ)の精神、②創造する力、③自立(自己実現)する力と定め、この「3つの力」を養うことを教育理念に定めている。

【関係者評価委員所見】

・かつて当校は、日本の服飾専門学校においてトップクラスの地位を保持していたが、近年は学生数の推移が物語るように存在感が脆弱になっている。

・しかし、学生の力量、なかでも服飾造形力に関するファッション業界の認識は上位にあり、建学の理念の「挑戦・創造・自立」をカリキュラム等において“見える形”で推進することが望まれる。

【課題・対策】

2019年度に教育理念を元にマトリックスに落とし込み、見える形で教育内容の見直しを図った。

基準2 学校運営

・運営方針

・事業計画

・運営組織

・人事・給与制度

・意思決定システム

・情報システム

【関係者評価委員所見】

・教育理念である「挑戦・創造・自立」がどのようなレベルで周知されているのか、その周知度を明確にする必要がある。

- ・教職員全体会議ではハラスメント研修とともに、国連が提唱しているSDGs(サステイナブル・デベロップメント・ゴールズ)の研修も必要である。
- ・学生向けの学務や履修等の情報をPCとともにスマートフォンで取得できるシステムの整備を急ぐ。

【課題・対策】

- ・教育理念をD.M.J会誌で毎回、掲載するようにした。
- ・SDGsは授業では行なっているものの、教職員に向けた研修は計画まで至っていない。
- ・教務面でのデジタル化は課題である。

基準3 教育活動

- ・目標の設定
- ・教育方法・評価等
- ・成績評価・単位認定等
- ・資格・免許取得の指導体制
- ・教員・教員組織

【関係者評価委員所見】

- ・当校は、職業実践専門過程に関する知識及び技術の習得が基本としているが、そこでの教育方針はファッション産業界の動きとリンクを強める必要がある。
- ・そのためにはファッション産業の変遷を図式化し、その変化に合わせたカリキュラム編成が必要である。
- ・教育面においてもデジタル化が喫緊の課題となっており、将来に向けてのeラーニングをはじめ教育におけるデジタル化の研究・整備に着手すべきである。

【課題・対策】

- ・ファッション産業の変遷を図式化はしていない。図式できるファッションビジネスの教員と来年度協議の場を設ける。

・産学連携授業は、業界と連動して毎年強化を図っている。具体的には、各科の科長が中心となり、企業や講師とのプロジェクト型の産学連携授業を目指し、充実を図っている。例えば、アパレルデザイン科と高度アパレル専門科の行っている「アパレルデザイン商品企画」産学連携授業では本年度、ファッションデザイナー指導のもと中国の工場でサンプル製作をしたが、この授業が織研新聞(10月25日付)に取り上げられた。

・e-ラーニングなどデジタル化に大いに興味はあるが、実現には至っていない。本年度は株式会社ワコムにDX(デジタルトランスフォーメーション)の特別講義を依頼して、業界の動向を把握することを実施した。来年度はCADがバージョンアップするので、3Dが導入され、アパレル技術科2年生において実施する予定である。

基準4 学修成果

- ・就職率
- ・資格・免許の取得率
- ・卒業生の社会的評価

【関係者評価委員所見】

・卒業生、自らが主体となった同窓会組織の再編が必要で、あらかじめ設定した卒業年度ごとの「ホームカミングデー」の新設も同窓会を活性化するイベントとなる。

【課題・対策】

・組織として同窓会が機能することが必要であり、現在は教員との繋がりに頼るところが大きく、課題と考えている。

基準5 学生支援

- ・就職等の進路
- ・中途退学への対応
- ・学生相談

- ・学生生活
- ・保護者との連携
- ・卒業生・社会人

【関係者評価委員所見】

- ・ファッション産業界でも最近では、SDGsやフェアトレードなどエシカルに対する認識が高まっている。こうした産業界が抱える背景を、授業だけでなく学園が取り組む活動として学生とともに知り・考える機会を検討する。
- ・学生支援もスマートフォンなどデジタルを取り入れたシステム構築の検討・整備を。

【課題・対策】

- ・SDGsに関しては、学校関係者委員でもある福永成明先生の特別講義を皮切りに、昨年度から産経新聞社主催の「ふくのわプロジェクト」に参加して、取り組んだ。実習の実施はファッションビジネス科と高度アパレル専門科であったが、本年度は全校的にリユースのための古着の仕分け作業を専門家の指導のもとに行った。https://www.fukunowa.com/news_school.html
- ・デジタル化は授業では行っているが、学生支援となると、wifiの整備、一斉メールやパソコン使用の場の提供、教員とのSNSでの連携に留まっており、manabaなどのクラウド型教育支援サービスでプラットフォームを構築することはできておらず、課題である。

基準 6 教育環境

- ・施設・設備等
- ・学外実習・インターンシップ等
- ・防災・安全管理

【関係者評価委員所見】

- ・産学連携では、テキスタイルやソーイング等の知識や技法を学ぶ例として、各種製造業の研修だけでなく、製造業を含めたインターンシップを推進するための業界(企業)との折衝に注力する必要がある。

・インターンシップは、1週間程度の短期型が主流だが、業務体験によって仕事の内容やスキルを習得するには、中長期型が求められ、それを可能にする履修体制(インターンシップ履修単位)の編成が必要。

・中長期型インターンシップを受け入れてもらうには、企業単位の折衝とともに、杉野学園賛助会員になっている日本アパレル・ファッション産業協会への協力要請も視野に入れるべきである。

・これらは教職員においても同様で、教職員も産業界との連携を強める仕組みづくりが求められる。

【課題・対策】

・本年度からは、就職部との連携を綿密にとってインターンシップを充実させている。

・現在企業との連携を強め、アパレル生産技術実習は企業が来校して授業を行なっている。

・本年度日本アパレル・ファッション産業協会への協力要請を行った。

・中長期型インターンシップは課題である。

基準 7 学生の募集と受入れ

・学生募集活動

・入学選考

・学納金

【関係者評価委員所見】

・スマートフォンによるHP閲覧が常態化している高校生向けには、HP充実は必須。さらに「YouTube」への掲載頻度を高める必要がある。各種ファッションショーをはじめイベントや授業内容等の掲載率を高めるのも、高校生等への知名度・高緯度に有効なPRとなる。

・毎夏に開催している「ドレメキッズスクール」の参加者も、6～7年後に高校生になる募集対象者である。この児童たちへのイベント案内などを定期化し、コミュニケーションを密にすることも募集活動の一つになる。

【課題・対策】

昨年も指摘いただいたように、本学院は HP がわかりやすく表現できていなかった。その指摘を踏まえ、HPは運営会社も含め改定を検討し2020年夏までに改定する予定である。

また、SNS の発進力も弱い。「学生募集実行委員会」や「自己点検・自己評価委員会」でも検討し、来年度に向けての対策を考えた。

基準 8 財務

- ・財務基盤
- ・予算・収支計画
- ・監査
- ・財務情報の公開

【関係者評価委員所見】

特になし

【課題・対策】

基準 9 法令の遵守

- ・関連法令・設置基準等の遵守
- ・個人情報保護
- ・学校評価
- ・教育情報の公開

【関係者評価委員所見】

・各ハラスメントへの対応とともに、今後、増加が予想される留学生への差別(ヘイト)を防止するためのマニュアルを整備し、教職員をはじめ学生にも周知する必要がある。

【課題・対策】

ハラスメントは防止対策委員会が開けるように整備されているが、教職員の意識も重要なので、強化項目にするなど今後の課題である。

基準 10 社会貢献・地域貢献

- ・社会貢献・地域貢献
- ・ボランティア活動

【関係者評価委員所見】

・当校では、さまざま形で社会貢献活動を行なっているが、これらを統合する形で「SSR (Sugino Social Responsibility) 委員会」を作り、学園としての社会貢献を整備し、その中で当校の活動を再編、貢献活動の輪を広げていくことが望ましい。

・これは地域貢献活動においても同様で、学生も参加する形での委員会で、杉野学園(ドレスメーカー学院)らしい活動を検討していく必要がある。

【課題・対策】

- ・社会貢献はSDGsの授業として取り組んでいる。
- ・地域貢献は品川区、目黒区の様々なイベントに積極的に参加している。中でも、地域の小学生を対象に、服飾のものづくりの楽しさを知ってもらうイベント「ドレメ・キッズ・スクール」を学院内で開催して取り組んでいる。
- ・国際交流は積極的に行っている。
- ・これらを統合するSSR 委員会を立ち上げるのは大きな課題である。